

2018年9月7日

株式会社日立物流(9086)

個人投資家向けIRセミナー

1. 日立物流のご紹介、当社のめざす姿

2. 2018年度通期計画、1Q実績

3. 重点施策【進捗状況】、トピックス

- 【 商 号 】 株式会社 日立物流
Hitachi Transport System, Ltd.
- 【 創 業 】 1950年2月
- 【 本 社 所 在 地 】 東京都中央区
- 【 代 表 者 】 中谷 康夫
- 【 資 本 金 】 168億円
- 【 上 場 】 東証一部 (1989年二部 1990年一部)
- 【 売 上 収 益 】 7,004億円 (2017年度)
- 【 連 結 社 員 】 25,074人 (2018年3月末)
- 【 グループ人員 】 47,784人 (2018年3月末)
- 【 ネットワーク 】 国内 26社 333拠点
海外 82社 398拠点 (2018年3月末)

※グループ人員数は、パート・派遣社員等含む。持分法適用関連会社人員を除く。
※会社数は、佐川急便(株)を含む ※拠点数は、佐川急便(株)を除く



本社ビル

※2017年8月に東京都江東区から移転



フレイトフォワーディング

3PL (システム物流) / 重量・機工 / 環境事業 / 物流エンジニアリング

フレイトフォワーディング

フレイトフォワーディング



国際フレイトフォワーディング
輸出入通関

3PL



調達/生産/販売/リサイクルに
おける物流サービス全般
WMSの設計・開発・保守

重量・機工



重量物/プラント品の輸送

事務所/工場等の移転/引越し
精算設備・精密機器の搬入据付作業

環境事業



各種製品の収集・運搬/3Rコンサルタント

物流エンジニアリング

包装設計
物流機器設計
物流コンサルティング



3PL導入前

(自家運営)



アウトソーシング
(業務委託)

3PL導入後

顧客(荷主)

コア事業

顧客のメリット

コア事業に専念

3PL事業者



提案力

専門力

技術力

運営力

改善力

- 会社数 : 108社
- 拠点数 : 731拠点
- 倉庫面積 : 731万m²
- 人員数 : 47,784人

29の国と地域に
ネットワークを展開

日本

26社 / 333拠点 / 499万m²
29,669人

欧州

12社 / 76拠点 / 51万m²
4,779人



北米*3

10社 / 49拠点 / 31万m²
2,914人

*3: メキシコを含む



東アジア*1

34社 / 144拠点 / 71万m²
2,377人

*1: 中国、香港、台湾、韓国



アジア*2

26社 / 129拠点 / 79万m²
8,045人

*2: オセアニア地域を含む



※会社数は、佐川急便㈱を含む
※拠点数・倉庫面積は、佐川急便㈱を除く
※人員数は、持分法適用関連会社人員を除く



代用燃料木炭車と従業員

創業時（1950年）のメンバー





冷蔵庫用低床ボディー車



路線車両



**カナダマイカ発電所納め
水車ランナの輸送作業**



**イランタブリツ発電所納め
ステータの輸送作業**

RFIDマテハン



小売店舗向け シュート



デジタルピッキング システム

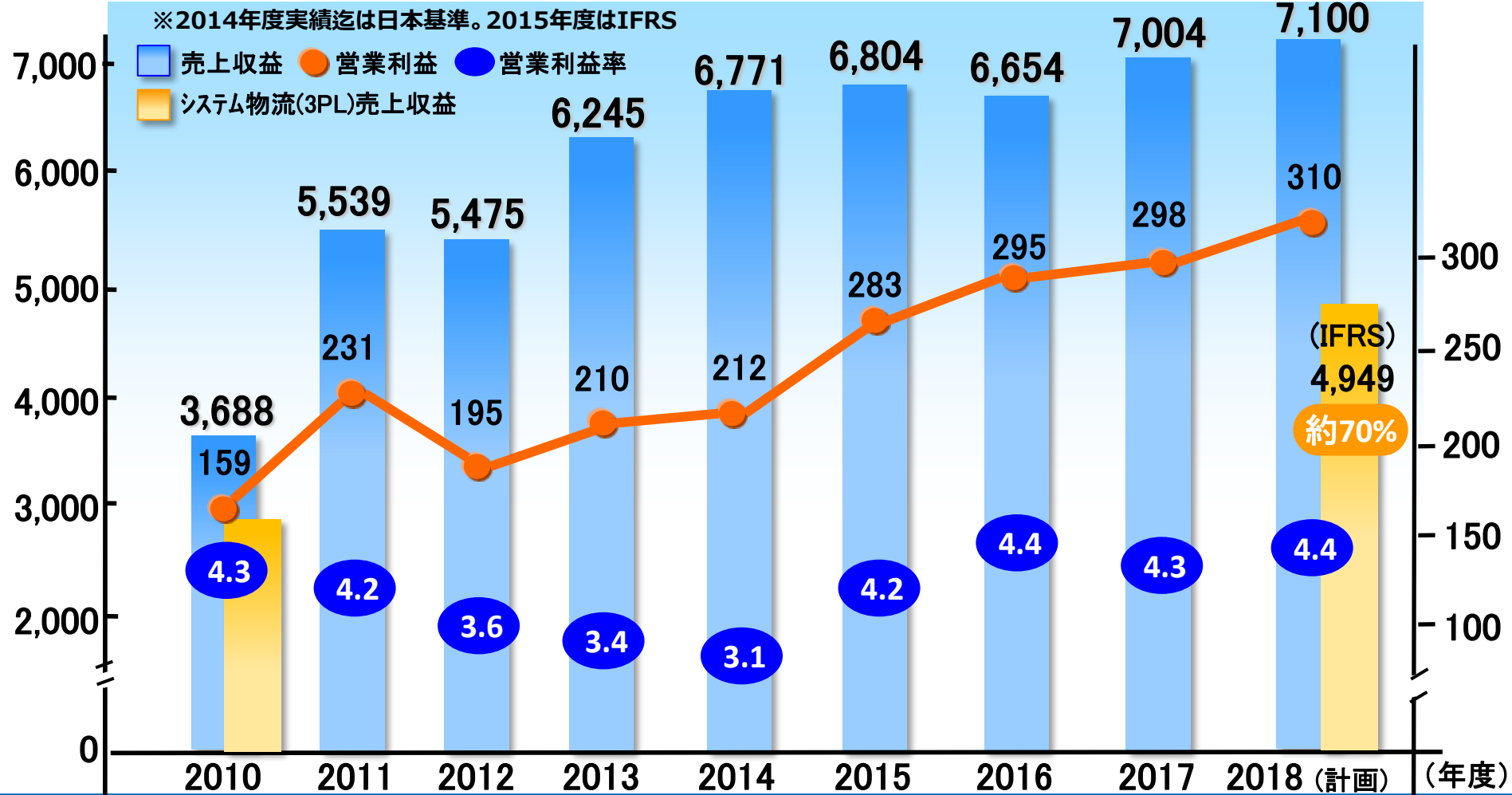


物流センター・トラック

(売上収益:億円)

(営業利益:億円)

※2014年度実績迄は日本基準。2015年度はIFRS



当社のめざす姿

めざす姿：Global Supply Chain Solutions Provider

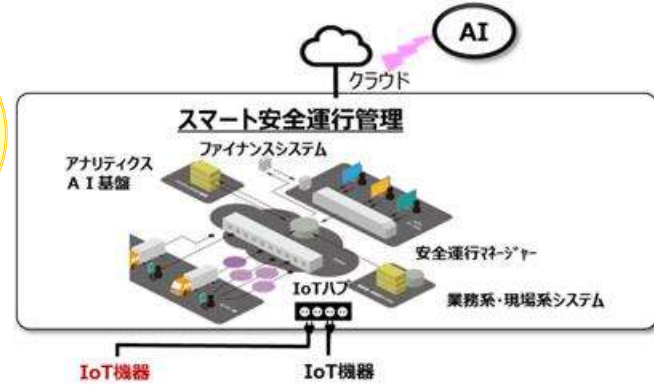
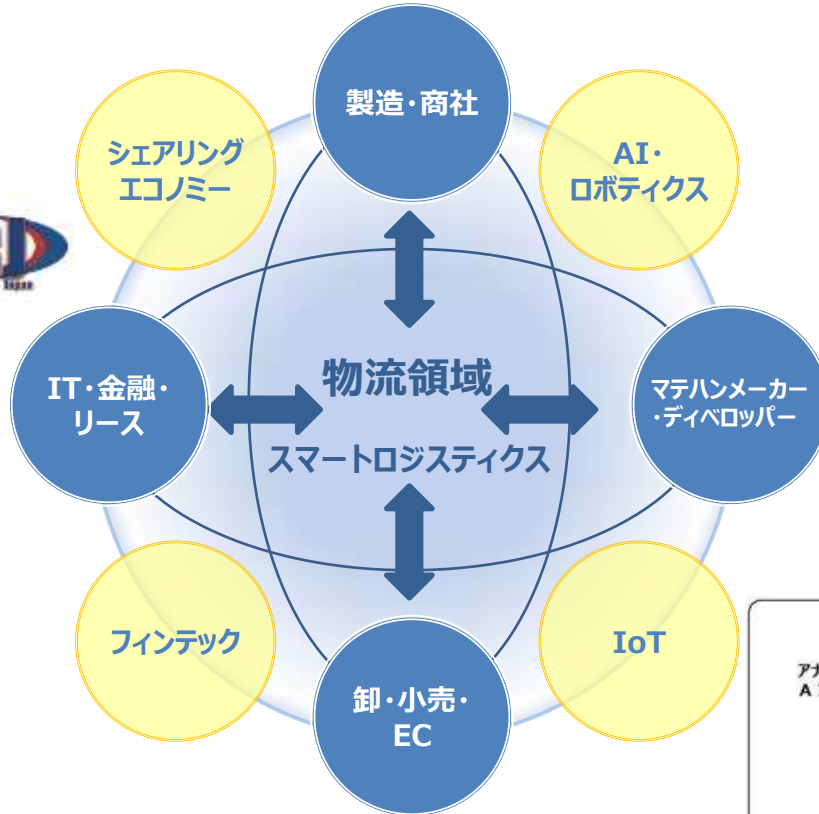
S&H | SAGAWA



プラットフォーム
(業界・エリアでのシェアリング)



SCM Finance



日立キャピタル Hitachi High-Tech

日立物流グループはスマートロジスティクスの領域を超え、
ブランドスローガンである“未知に挑む”当社グループの姿を、

新たなビジネスコンセプト『**LOGISTEED**』に込めて始動しました。

『**LOGISTEED**』： LOGISTICSと、Exceed、Proceed、Succeed、そしてSpeedを融合した
ロジスティード 言葉であり、ロジスティクスを超えてビジネスを新しい領域に導いていく意思が
込められています。

ビジネスを未来へ運ぶ、
SMART LOGISTICS



物流は新領域へ

LOGISTEED

未知に挑む。



日立物流

2018年度 通期計画

(単位:億円、端数四捨五入、< >内は利益率(%）、()内は増減差)

	2016年度		2017年度		2018年度		前年比	
	実績		実績		計画 (4.27時点)	比率	増減	
売上収益	6,654	7,004	7,100	101%	96			
営業利益 ※	<4.4> 294.7	<4.3> 298.0	<4.4> 310.0	104%	12.0			
EBIT	<4.7> 315.6	<4.7> 330.9	<4.9> 347.0	105%	16.1			
親会社株主に帰属する 当期利益	<2.8> 187.0	<3.0> 209.2	<3.0> 215.0	103%	5.8			
ROE	10.3%	10.7%	9.6%	-	(-1.1%)			
株価(終値)	(2017.3.31) 2,313円	(2018.3.30) 2,990円	(2018.8.31) 3,060円	-	-			
一株当たり配当	34円	36円	39円	-	(+3円)			

※本資料中の営業利益は、「調整後営業利益」を記載

2018年度 第1四半期決算概要

(単位：億円、端数四捨五入、< >内は利益率(%))

	2017年度		2018年度				
	第1四半期		第1四半期			通期	
	実績	実績	前年同期比		計画 (4.27時点)	前期比	
			比率	増減			
売上収益	1,689	1,748	104%	59	7,100	101%	
営業利益	<3.9> 65.6	<4.2> 74.2	113%	8.6	<4.4> 310.0	104%	
EBIT (受取利息及び支払利息 調整後税引前四半期利益)	<4.7> 79.3	<4.6> 80.7	102%	1.4	<4.9> 347.0	105%	
親会社株主に帰属する 四半期利益	<2.8> 47.8	<2.9> 50.5	106%	2.7	<3.0> 215.0	103%	

※本資料中の営業利益は、「調整後営業利益」を記載

通期計画は変更なし

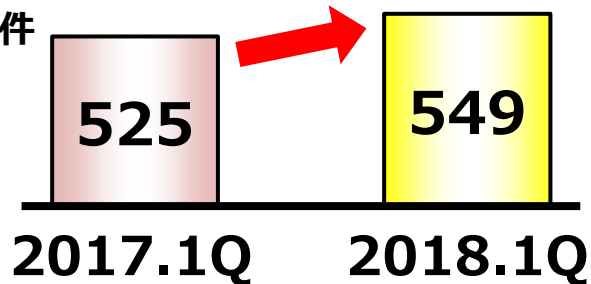
■ 受注・立上状況 (大型案件) 【年商 1 億円以上】

単位：件

		2017年度		2018年度	
		第 1 四半期		第 1 四半期	
受 注	国 内	2	3	1	
	国 際	4	4	0	
	計	6	7	1	
立 上	国 内	1	5	4	
	国 際	1	2	1	
	計	2	7	5	

(参考) 受注状況 (国内小型案件) 【年商 1 億円未満】

単位：件



*** 地域密着営業の強化により、
地域における案件獲得は着実に進展**

重点施策

2018年4月27日プレスリリース

「物流トラック運行管理における疲労科学に基づく 事故リスク評価予測手法の開発」

～事故ゼロ社会の実現に向けたスマート安全運行管理システム～

■背景とねらい

事故を防ぎ、人を守ることは、輸送事業者だけにとどまらない社会的使命であり、IoTテクノロジーの活用により、ドライバー任せにしない安全運行のためのビークルソリューション※を開発し、安全・品質を確保するとともに、本取り組みを広く展開し、プラットフォーム化することで「安全・環境に配慮した社会」「事故ゼロの社会」の実現をめざします。

※自動車にかかわるファイナンスにとどまらず、顧客ニーズに応じたメンテナンスや保険などの各種サービスを組み合わせたトータルソリューション

事故ゼロ社会の実現に向けた産学連携による共同研究

スマート安全運行管理システム

(日立キャピタルオートリース、理研※1、関西福祉科学大※2、日立製作所と共同研究を開始)



ソリューション概要

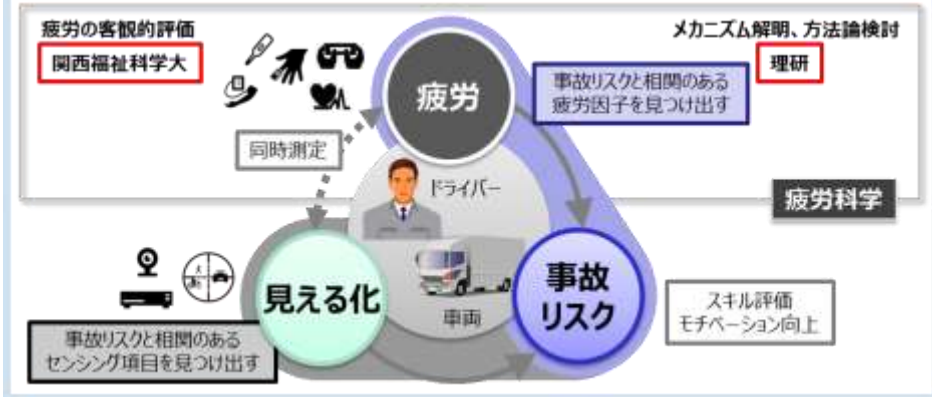
- ① 運行前、運行中のドライバーの情報をクラウドに集約
- ② AIが事故・ヒヤリハットに影響を与える状況を判断
- ③ リアルタイムにドライバーと運行管理者へ警告を発信

▶ 「**疲労科学**」学識者との共同研究
(事故リスク評価・対策による安全・品質の追求)

ユーザー提供価値

- ① ドライバーを守る労働環境の構築と事故防止によるロスコスト削減
- ② デジタル化による運行管理者業務の軽減と効率化
- ③ 安全品質の向上、品質指標の見える化

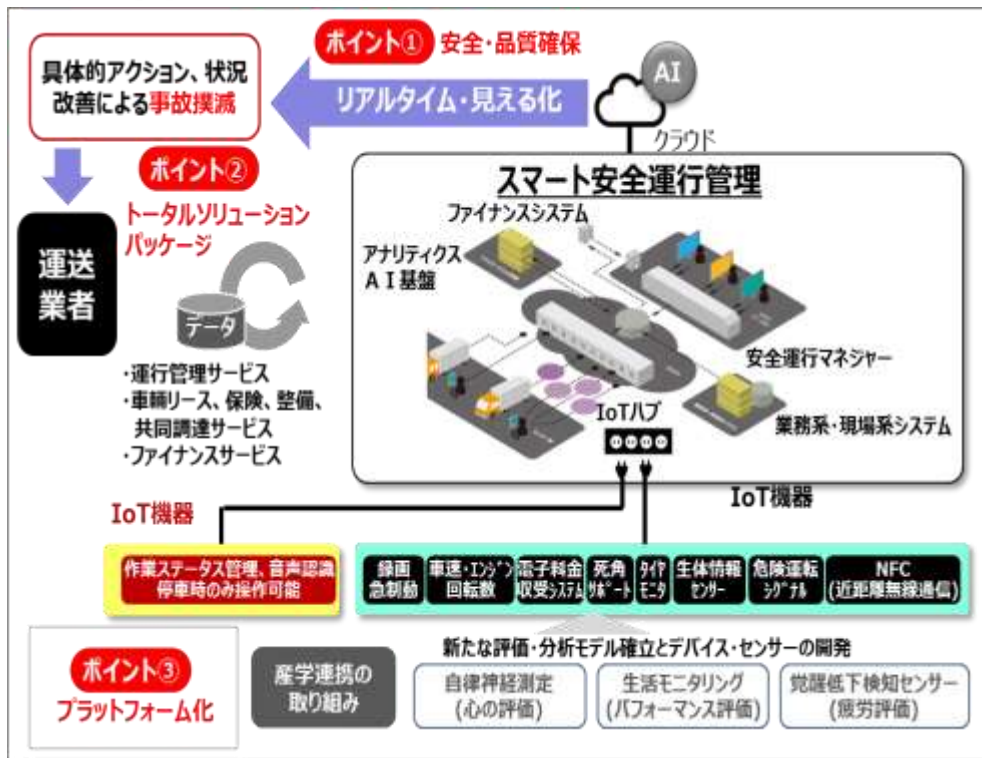
▶ **運送事業者へのトータルサポート**
ドライバーの労働負担軽減と環境改善



※1 国立研究開発法人理化学研究所 生命機能科学研究センター ※2 学校法人関西福祉科学大学

ドライバー任せにしない、安全運行のための ビークルソリューションシステム の開発

スマート安全運行管理システム



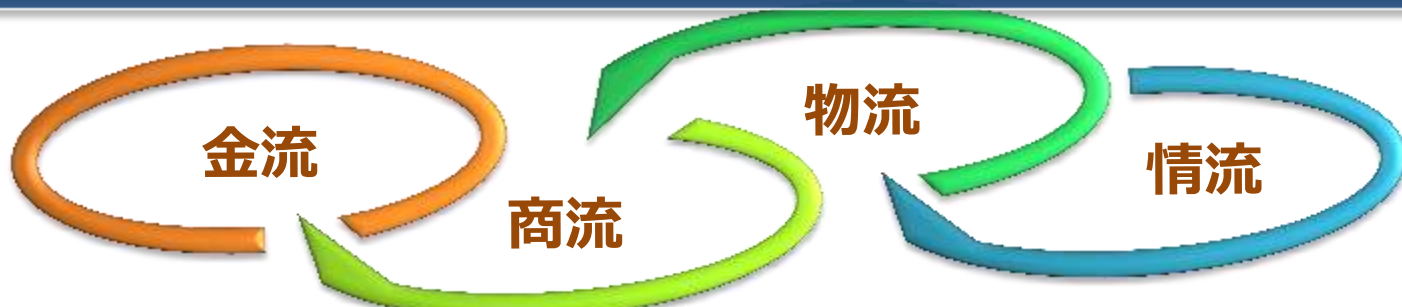
今後の展開

- ①IoT活用による事故のゼロ化とロスコストの削減
- ②高度運行管理システム・安全教育システムの構築
- ③車両のリース・保険・整備・共同調達機能を付加したトータルソリューションパッケージ化
(日立キャピタルとの協業
:「金流×商流×物流×情流」の新たなイノベーション)

将来構想

- 調達機能の共有化によるコスト削減と導入車両拡大
- 予兆診断による整備ビジネスへの貢献
- トラックメーカーとの協創による、標準装備化
- バス・タクシーへの拡販

▶ エコシステムの拡大から生活を支えるライフラインとして

日立キャピタルとの業務提携に関する基本合意

**提携
目的**

機能としての金融・物流強化を中核としながらも、事業・業界を超えた協創領域の拡大を図り、**「金流×商流×物流×情流」の新たなイノベーションの実現**に向けた施策を推進

**提携
内容**

- ① 具体的な提携内容は両社にて協議・検討中
- ② **日立オートサービス株式の一部を日立キャピタルに譲渡** (協議・検討中)
 ⇒ 日立キャピタルが推進する**「ビークルソリューション事業」***との連携強化

**今後
の予定**

- ・業務提携契約締結：2018年6月下旬 (予定)
- ・日立オートサービス株式譲渡日：2018年7月下旬 (予定)

* 自動車にかかわるファイナンスにとどまらず、顧客ニーズに応じたメンテナンスや保険などの各種サービスを組み合わせたトータルソリューション

シームレスな総合物流サービスの実現に向けた協創・協業の推進

項目			2017年度				2018年度			
			1Q実績		通期実績		1Q実績		通期計画	
			売上収益	営業利益	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益
国内	3PL・輸送	クロスセル・効率化	9	0.8	101	9.7	40	4.2	-	-
	その他	重量・機工 等	0	0.0	1	0.2	0	0.0	-	-
	小計		9	0.9	103	9.9	41	4.2	186	18.4
国際	3PL・輸送	クロスセル・効率化	0	0.0	1	0.1	0	0.1	-	-
	その他	重量・機工、フォワーディング等	1	0.1	6	0.7	2	0.3	-	-
	小計		1	0.1	7	0.8	2	0.3	11	1.2
その他	その他	車両リース、トラベル事業等	0	0.0	2	0.1	1	0.2	-	-
	小計		0	0.0	2	0.1	1	0.2	3	0.4
協創効果	3PL・輸送	クロスセル・効率化	9	0.8	102	9.8	41	4.2	-	-
	その他	重量・機工、フォワーディング等	2	0.2	9	1.0	3	0.5	-	-
	協創効果 ()内は営業利益率		(9.4%) 11	1.0	(9.7%) 111	10.8	(10.6%) 44	4.7	(10.0%) 200	20

■ 通期計画に対する進捗率： 22% 23%

クロスセル案件の協業推進

■ 2018年度の主な稼働案件

～稼働済～

- ・ 4月：流通・小売
- ・ 5月：アパレルメーカー
- ・ 6月：飲料メーカー
- ・ 7月：シューズメーカー

～稼働予定～

- ・ 8月：食品メーカー
- ・ 8月：シューズメーカー
- ・ 9月：食品メーカー
- ・ 11月：出版社 他

■ 提案中案件

- ・ アパレルメーカー
- ・ 流通・小売
- ・ 化粧品メーカー
- ・ 出版社
- ・ 化学メーカー 他

約200億円(年間寄与)

Racrew[※]運営エリアの拡張 (千葉県内物流センター：スポーツ関連)

2015年4月以前：Racrew導入前

【従来の作業】間口を作成し、手作業でピッキング



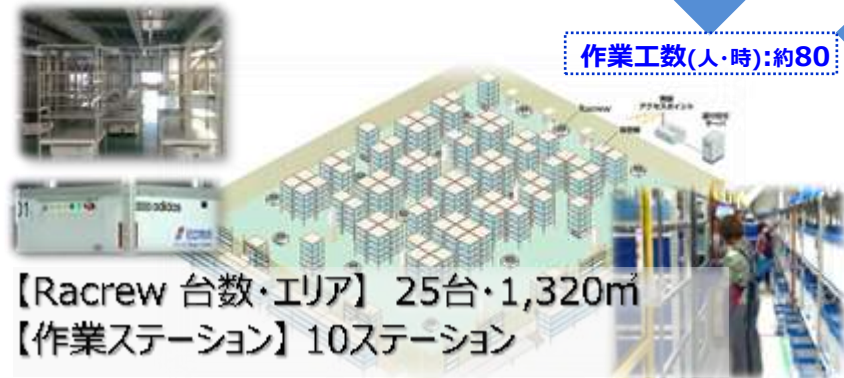
作業工数(人・時):100

2015年4月以前の仕分け作業の工数を100として比較

2015年5月：Racrew導入

約2割減

作業工数(人・時):約80



【Racrew 台数・エリア】 25台・1,320㎡
【作業ステーション】 10ステーション

2018年3月：50台追加導入 (25台→75台)

【Racrew 台数・エリア】 75台・2,880㎡
【作業ステーション】 26ステーション



作業工数(人・時):約50

約3割減

Racrewの導入拡大により物量増加と将来の作業人員不足、人件費高騰への先手対応

※「Racrew」は(株)日立製作所の日本国内の登録商標です。

関西第二メディカル物流センター 【新技術の導入時期：2018年5月】



当センター概要

[2018年2月稼働]

- ・新技術の実装
- ・GDP※1に準拠
- ・BCP対応 (自家発電、免震構造)
- ・快適な職場環境 (休憩室等)

場所	兵庫県三田市
倉庫仕様	地上4階建 鉄筋コンクリート造
延床面積	約44,500㎡
取扱商品	メディカル関連



● 順立機 (5月導入)



● 無人フォークリフト (6月導入)



● WVS※2による作業進捗管理

※1. Good Distribution Practiceの略称：輸送・保管中にも劣化しないように厳密な品質管理の確保を目的とした「医薬品の適正流通基準」

※2. Warehouse Visualized System：現場可視化システム

イノベーションセンター開設（英国）【開設時期：2019年4月(予定)】

■ 開設目的

- ・ 新技術のグローバル展開促進
- ・ トレーニングの充実による安全品質向上（ロスコスト削減）


■ センター機能

- ・ トレーニングセンター（フォークリフト等）
- ・ 産官学連携による新技術の研究・開発（R&D）および実証

物流は新領域へ

LOGISTEED

■ センター概要

名称	イノベーションセンター 
場所	英国サンダーランド市 (バンテックヨーロッパ 倉庫内)
面積	約800㎡ (2F：メザニン※仕様) ・既存倉庫一部スペースを活用

※倉庫内部空間の有効活用を目的とした中2階式の仮設の棚

【現状】(倉庫)



【イノベーションセンターへ改修】



Living Warehouse

(バーチャルフォークリフトトレーニングセンター) イメージ

トルコ：新本社倉庫

(2018年5月稼働)



所在地：イスタンブール
延床面積：約40,000㎡ ■取扱商品：衣料・化学品他



高所用フォークリフト

■トルコを基点としたインターモーダル事業の拡大

マレーシア：ニライチルドセンター

現在建設中

(2018年11月稼働予定)



所在地：ネグリスンビラン州（ニライ工業団地）
延床面積：約7,500㎡ ■取扱商品：冷蔵・冷凍品



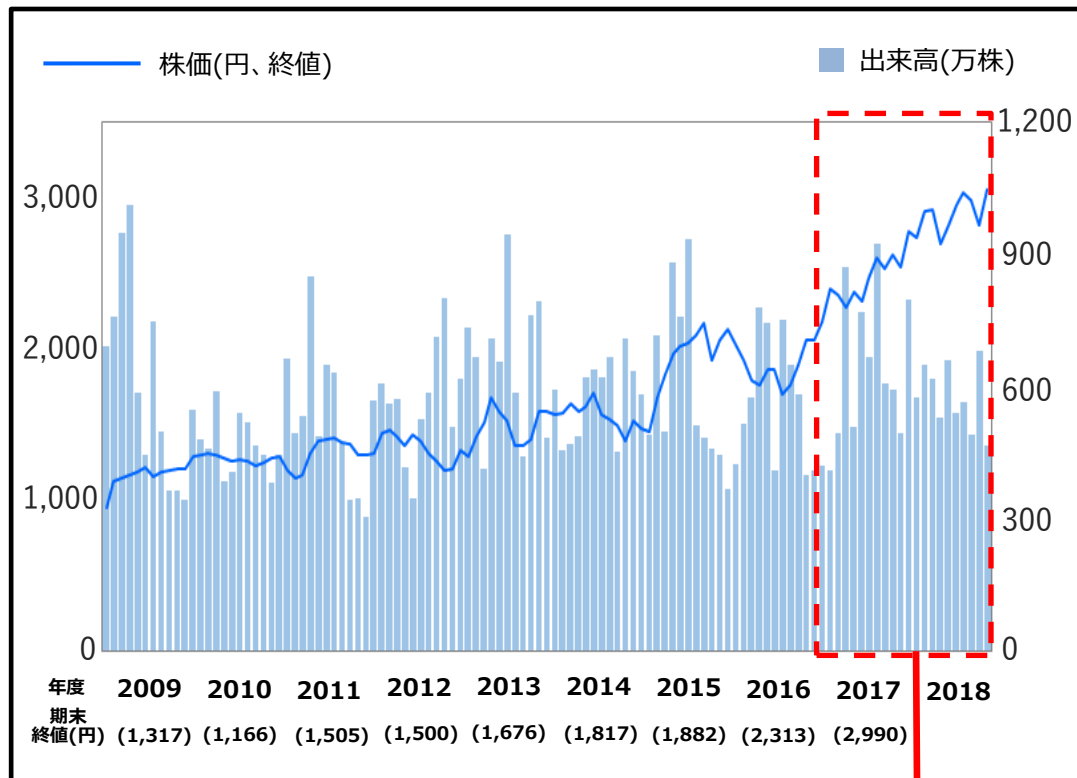
■コールドチェーンの拡大



- * 空調設備 * 保冷库 * 自家発電機
- * ペストコントロール * ドックシェルター
- * 監視カメラ * 指紋認証ロック

★過去最高値：3,210円（2018年5月8日）

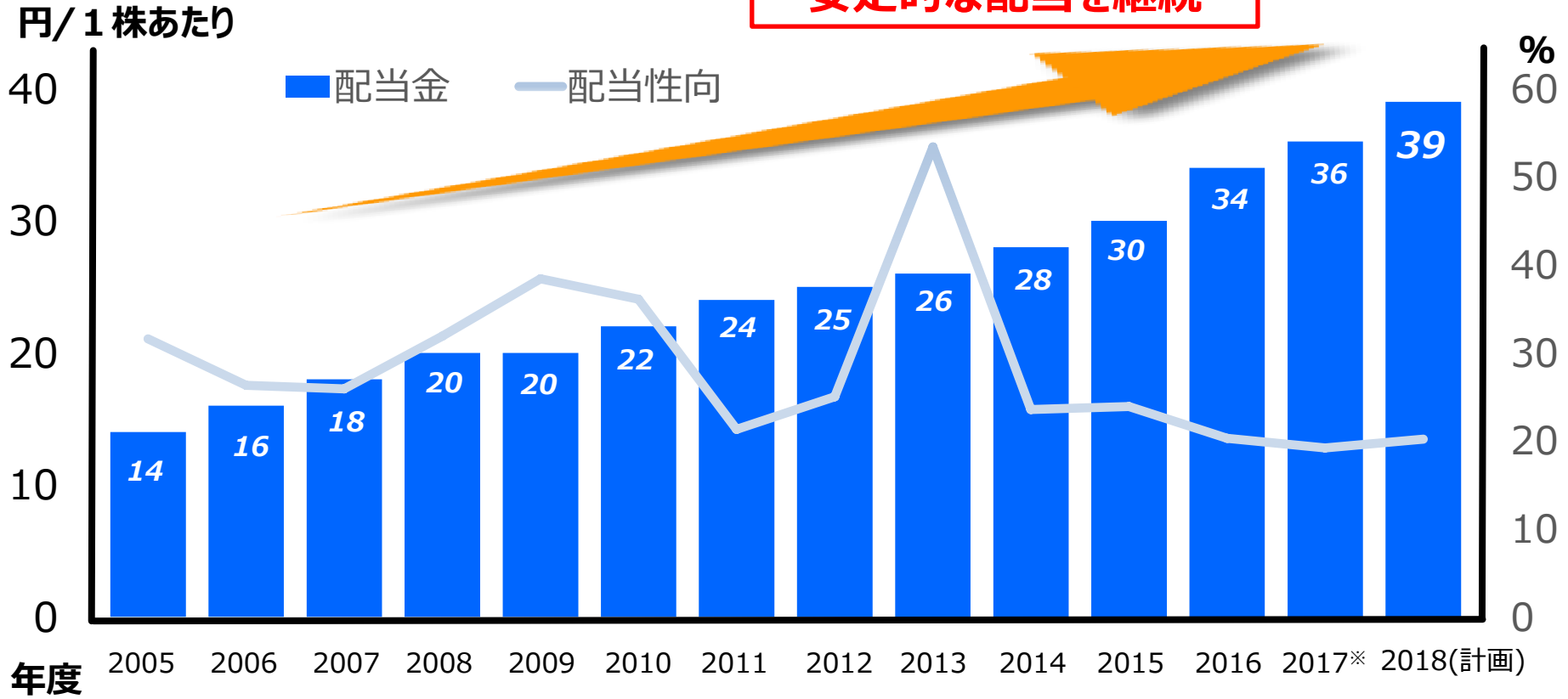
【直近10年間】



【直近2年間】



安定的な配当を継続



日本基準

IFRS

(単位：億円)

項目	2013年度 〔日本基準〕	2014年度 〔IFRS〕	2015年度 〔IFRS〕	2016年度 〔IFRS〕	2017年度 〔IFRS〕
営業活動によるキャッシュフロー	256.9	322.7	388.2	263.7	279.2
投資活動によるキャッシュフロー	△ 246.0	△ 198.9	△ 103.7	△ 690.0	△ 61.8
フリー・キャッシュフロー	10.9	123.8	284.5	△ 426.3	217.5
親会社株主持分（自己資本）	1,686.8	1,737.2	1,755.4	1,874.8	2,043.3
親会社株主持分比率(%)（自己資本比率）	39.4	37.8	37.8	34.1	36.2
D/Eレシオ(%) ※1	49	57	55	86	79
キャッシュフロー対有利子負債比率 ※2	3.9	3.5	2.9	6.9	6.5

※1.有利子負債÷資本合計の数値。有利子負債に割賦未払金は含まない。

※2.有利子負債に割賦未払金を含む